

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 30 日現在

機関番号：13701

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2012

課題番号：22500696

研究課題名（和文） 明治・大正期の翻訳家事教科書からみえる時代が求めた模範家庭像

研究課題名（英文） The model home image for which the time which is in sight from the translator textbook of the Meiji and Taisho term asked

研究代表者

夫馬 佳代子 (FUMA KAYOKO)

岐阜大学・教育学部・教授

研究者番号：70249291

研究成果の概要（和文）：大正期に発行された翻訳教科書『模範家庭』は、新たな中間層家庭の出現、「主婦」という女性の役割分担の確立、経済的困窮への対処や合理的生活の推進を目的とする生活改善運動等を背景に、新たな価値観を模索していた大正期における「模範的家庭像」を示すことを目的にしていたと推測した。そこで翻訳教科書と原典と対比し、原典との相違点を明らかにし、そこから翻訳の意図を分析するにより大正期の家庭観の成立過程の一端を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：It was surmised that the translation textbook "model home" published at the Taisho term was aimed at showing the "model home image" of the Taisho term against the background of better living movement etc.

Then, difference with the original text was clarified as contrasted with a translation textbook and the original text.

The formation process of the home view of the Taisho term was clarified more analyzing the intention of translation from there.

It was presupposed about the information on the exact original text of a "model home" that it was unknown until now.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
2012年度	100,000	30,000	130,000
年度			
年度			
総計	1,100,000	330,000	1,430,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：生活科学・生活科学一般

キーワード：大正の女子教育・翻訳家事教科書・家事教育・模範家庭・生活改善運動・家事教科書

1. 研究開始当初の背景

家事教育の変遷から捉えると、明治初期の欧米教育の受容期には翻訳家事書が多く出版されるが、その後は日本独自の家事教育が

発展し、裁縫教育とともに近代の女子教育に大きな役割を果たしたと考えられている。こうした日本の家事教育に翻訳家事書が及ぼした影響および教育内容の特質については、

既に明らかにされている。

大正期に入ると、日本の家事教育は「理科・家事」の表現からも明らかなように、科学的な視点が積極的に導入される傾向にあった。本研究で取り上げた『模範家庭』はこうした時代背景の中で刊行（大正2年）された翻訳家事書である。今日『模範家庭』は『家政学文献集成』などに収録されており、明治から大正期にかけての代表的な家事書として捉えられている。

『模範家庭』の訳者は当時の代表的女子教育者の鳩山春子であり、鳩山が教授した共立女子職業学校及び専門学校において教科書として大正初期から昭和初期に至るまで数度にわたり再版され活用されることとなる。この翻訳家事教科書に記される生活像の特色については既に述べたが、生活上の困難な問題に試行錯誤を繰り返し立ち向かう一家の1年の姿を物語風に描いたテキストであり、内容的にも当時の家事教科書としては異色な存在といえよう。

明治期の翻訳家事書の導入は、欧米の家事教育などを通して生徒たちが近代的家庭像について学ぶことにより、日本の家庭像や生活観の近代化を急速に図ろうとするものであったと捉えることができる。

2. 研究の目的

大正期に発行された翻訳教科書『模範家庭』は、新たな中間層家庭の出現、「主婦」という女性の役割分担の確立、経済的困窮への対処や合理的生活の推進・普及を目的とする生活改善運動などを背景に、新しい価値観を模索していた大正期における「模範的家庭像」を示すことを意図していたことが推測される。故に、本書の内容を原典と対比し、原典との相違点を明らかにし、そこから翻訳の意図を分析するにより、大正期の家庭観の成立過程を探ることに繋がるのではないかと考えた。

3. 研究の方法

『模範家庭』は『家政学文献集成続編明治期IV』及び『家政学シリーズ 模範家庭』に収録されており、明治から大正期にかけての代表的な家事書として捉えられている。しかし、両シリーズの『模範家庭』の解説には原典の発行年や執筆者の詳細については不明と記載されている。だが、翻訳教科書が持つ意味を解説するには、原典との対比が必須であろう。そこで原典の調査を行った結果、筆者はイギリスの全発行書籍を保管することが前提とされるオックスフォード大学ボドリアン図書館にて、本書の原典と思われるテキスト **GIRLS AT HOME A DOMESTIC ECONOMY READER FOR USE IN SCHOOLS WITH A CONCISE TEXT-BOOK OF DOMESTIC ECONOMY** を見出す

ことができた。

本研究では鳩山が、原典を何故「模範家庭」と訳したかに焦点を当て、翻訳書との対比を通して内容の分析を試みた。その際、とくに翻訳書に記載されなかった部分に着目した。なお、原典の著者については、原典に明確な著者名の記述が見られない。出版は **T. NELSON AND SONS (London, Edinburgh, and New York)** であることが記されている。同出版社から1897年には、教師用のテキストとされる **DOMESTIC ECONOMY FOR TEACHERS SIXTH EDITION T. NELSON AND SONS (London, Edinburgh, and New York 1897.)** が発行されている。

4. 研究成果

(1) 原典の構成と翻訳教科書の構成

原典は、**CONTENTS・POEMS OF HOME・NOTES AND MEANINGS・SUMMARY OF DOMESTIC ECONOMY・DERIVATION AND WORD-BUILDING** の5部構成となっている。

原典と本書の構成を対比すると、鳩山の原典に忠実に翻訳した部分は冊子の頁数の大半を占める **CONTENTS** の部分に該当し、**POEMS OF HOME・NOTES AND MEANINGS・SUMMARY OF DOMESTIC ECONOMY・DERIVATION AND WORD-BUILDING** に該当する部分は省略されていることが明らかとなった。つまり翻訳教科書は、必ずしも原典の全体内容を反映している訳ではなく、『模範家庭』は原典の一部を抽出して家事教科書として用いたものであることが分かる。翻訳書の **CONTENTS** の内容は一家の1年の生活を描写した物語となっているが、原典は全体構成から捉えると「物語風の家事書」とは一概にいえないことが分かる。ここで、改めて原典の構成上の特徴について述べる。

(2) 省略された「挿絵」

『模範家庭』の原典には翻訳家事書『模範家庭』には掲載されなかった7枚の「挿絵」の存在がある。各々の「挿絵」の内容について具体的に検証し、翻訳の段階で削除された背景について検討した。

その結果、「挿絵」の内容と本文の物語の内容を照合すると、「挿絵」は物語の場面の詳細を忠実に描き、特に家族の日常生活と家族を支援する人々の存在を強調して示していることが分かる。さらに「挿絵」で描かれる場面には、家事の要点や家庭を運営する上での留意点が強調して描かれている。

つまり、この書において「挿絵」は単なる物語のイメージを表現する役割ではなく、物語に描かれる家族像を現実的に受けとめる役割を担ったものと捉えることができる。

(3) 省略された **POEMS OF HOME**

「挿絵」と同様に、イングランドの「家庭観」「家族像」を象徴するものとして、原典

では「詩」が多く用いられる。しかし、鳩山は、10編の「詩」の存在には全く翻訳家事書の中で触れていない。省略された「詩」の内容は如何なるものであったのか、具体的な「詩」の内容について検討した。

10編の「詩」は「1. HOME」、「2. THE HOMES OF ENGLAND」、「3. THE OLD ARM-CHAIR」、「4. SONG OF EMIGRATION」、「8. BE KIND」、「10. LOVE LIGHTENS LABOUR」等と題する英国の伝統的な家庭生活を題材としたものである。

この「詩」の内容の分析を通して、原典の家事書では、「英国の理想とする家族像」を子どもに伝えることを意図していたのではないかと推測した。このことが、翻訳者の鳩山がこの部分を省いた背景にも関係していると思われる。

(4) 省略された SUMMARY OF DOMESTIC ECONOMY

翻訳家事書『模範家庭』には、SUMMARY OF DOMESTIC ECONOMYの内容についても全く触れていない。一方原典では、SUMMARY OF DOMESTIC ECONOMYは物語で描いた家事に関する各場面、特に家計・衣・食・住・購入に関する専門的知識の要点について理論的な補足及び要点を確認する役割を果たしている。

何故、翻訳者の鳩山は『模範家庭』においてSUMMARY OF DOMESTIC ECONOMYを記載しなかったのであろうか。この点について、翻訳者の鳩山が意図的に省いたことが推測される。この根拠としては、翻訳により知り得たイングランドの家事理論が、後に執筆した家事書の内容には導入されていなかった点からも推測できる。

比較検討のため、『模範家庭』が発行された同時期の家事書の内容傾向についての分析も試みた。その結果、同時期に執筆された家事教科書の中には科学的な理論が導入される傾向がみられた。例えば同時期の家事教育者である喜悦の家事書には、生活科学的な家事論が記載される。喜悦は国家主義的な立場で家政教育を捉え、主婦の家庭生活を運営する役割も国民の育成に価値を見出す傾向がみられたが、家事書の内容には科学的視点を導入し、現在の家政の構成にも繋がる家庭運営に関する基礎知識が網羅された構成を呈している。

一方で鳩山は、既に大正2年には英国の家事に関するテキストを翻訳し、SUMMARY OF DOMESTIC ECONOMYに記載される栄養知識を得ていたが、こうした生活科学的視点の内容は執筆書には反映されていない。鳩山は、科学的な視点で家政学を教授するよりも、家庭運営など主婦としての理想像を追究することが家政学の使命と考えていたと思われる。

おわりに

本研究では、大正期の翻訳家事書『模範家庭』を原典と対比させ、翻訳書の特徴を探ることにより、大正期に求められていた模範家庭像を明らかにすることを試みた。また、調査対象とした翻訳家事書と同時期に発行された家事教科書の内容と比較することにより翻訳家事書の特徴を明らかにすることも試みた。

その結果、翻訳家事書『模範家庭』は、原著と比較し「POEMS OF HOME」の欠如により「イギリスの家庭観」の欠如、「NOTES AND MEANINGS」で示される「家事に関する専門用語の知識・技術」の欠如により、家事教育の専門書の意味合いが薄まること、さらに「SUMMARY OF DOMESTIC ECONOMY」の欠如により、「家事教育で習得すべき要点」等の理論面が省かれていたことが明らかとなった。

上記の原典の内容を省くことにより、イギリスの「家庭生活の価値観」、「実践的な家事」、「科学的知識」に裏付けされた家事教育を学ぶ、教科書としての本来の教育目的を達成できないことが予測できる。鳩山は英文の解説に優れていたとされ、原著の構成や意図は十分に理解していたと思われる。あえて本文のみを翻訳し、教科書として紹介したのが実状と思われる。鳩山氏は家事書において家庭生活の価値観や科学的知識を省き、何を伝えようとしていたのか。

鳩山が採択した本文部分は、生活実態を描いたものであり、科学的知識の伝授としては欠如した内容である。それにもかかわらず採択した背景には、家族の家庭生活の再生過程を描いたストーリーこそが、大正期の家事教育に必要であると考えたのではないであろうか。生活改善運動家でもあった鳩山は、大正期の新しい家族形態と生活観の創造の過程で、次世代の女学生には、自ら家庭生活を創り出す力と実践力が必要であると主張したのではないであろうか。

翻訳書の題名である『模範家庭』は、イングランドの家庭生活を「模範」とする意味ではなく、大正期の生活改善運動家の鳩山が理想とする家庭像を「模範」と表現したのではないか。大正期の困窮した生活実態を背景に、時代に対応した独自の生活像の確立を目指した鳩山の理想像と『模範家庭』の家族像が重なっていたことが推測できる。また、自らが試行錯誤の中で新しい生活を確立する生き方そのものを「模範」と表現する意味合いも含めていたとも思われる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1 件)

①夫馬佳代子, 翻訳家事書『模範家庭』(1913年刊)の特質－原典との対比を通して－, 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要(教育科学)査読有. 第58巻第1号, 2011, p 109－121

6. 研究組織

(1) 研究代表者

夫馬 佳代子 (FUMA KAYOKO)
岐阜大学・教育学部・教授
研究者番号：70249291

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：